

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

| | |
|------|-------------------------------------------------------------|
| 対象部局 | 商学部 |
| 大項目 | 6 教育内容・方法・成果 |
| 中項目 | 6.4 成果 |
| 小項目 | 6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。 |
| 要素 | 学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価） |
| 小項目 | 6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。 |
| 要素 | 学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院）（専門） |

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗状況評価 | | | | |
|----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|--------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 学習成果を図る指標としてのGPAおよび/または平均点を検証し、それらの活用方法（例えば、奨学金推薦要件、研究演習所属要件、研究科進学要件など）を改善する。 | →GPAおよび/または平均点の基本統計量（平均、標準偏差など）の推移 | C | C | B | B | / |
| 2. 商学部の各教員が用いている教育効果の測定方法や成績評価の仕組みを共有し、客観的な評価方法を構築する。 | →指標開発活動に関する教授会報告の状況、研究会の開催件数および提言・実施状況など | B | B | B | B | / |
| 3. 単位認定のさらなる適正化を図り、MDSを積極的に提供する。 | →単位認定の理由と件数、学士（商学）としての卒業者数、MDSの受入者数・修了者数 | B | B | A | B | / |
| | | ☆ | | | | |
| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| | → | / | / | / | / | / |
| | → | / | / | / | / | / |

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

| | |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 目標1 | 2012年度からの新カリキュラム実施にともない、研究演習所属要件をより厳しくし、2年次修了時点での単位数が基準を満たさない場合は、研究演習に所属できない規定を設けた。GPA・平均点のより創造的な活用については、すでに実施している施策を発展させるよう検討している。 |
| 目標2 | 一部の選択必修科目については、講義内容・テキスト・成績評価方法を統一し、試験も統一内容にして実施するといった施策を実施している。他方でFD委員会主催の研究会では、教員の教育・研究内容についての発表を行い、議論を行っている。 |
| 目標3 | 単位認定については2012年度より実施の新カリキュラムより、前年より厳しい基準を設け、すでに実施している。MDSは相当の受入数を確保しながら、安易な申請は認めないよう、履修の正当性と学習意欲に報いるバランスを考えている。 |
| 備考 | 特になし |